

# 論壇

## 礼文島で興味深い光景

この夏、以前から行ってみたいと考えていた北海道の礼文島と利尻島に行く機会があった。北海道最北の島であり、礼文島は最高地でも400m程度という島だが、本土では高原でしか見られないような高原植物が繁茂している。低い丘のようなどころをトレッキングするわけだが、景色は素晴らしい、20年ほど前にスイスの山をトレッキングしたのを思い出した。

吉永小百合主演の北のカナリアという映画を見た人は、礼文島がその舞台となったことを知っているだろう。映画では冬の寒々とした光景が映し出される。映画の冬の光景と、私が歩いた夏の島の風景とは、まったく別のものではあった。

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

## 地方空港同士をつなぐ重要性

この礼文島で興味深い光景に遭遇した。バスを仕立てて100人ほどの観光ツアー客と会ったのだ。長野県の松本から来たという。通常であれば、松本から礼文に行くには、まず3時間以上かけて列車で羽田まで行かなくてはならない。それから稚内経由ということになるので、時間も費用もかかる。

さて、観光となると、礼文島はなかなか難しい場所にある。東京からだと、羽田空港から稚内空港に飛び、そこからフェリーで2時間の移動となる。たどり着くまでに時間がかかる。東京以外の都市となると、まず羽田空港まで行ってそこからということになるのだ。さらに時間がかかる。これだけ不便な場所にあるので、手つかずの自然が残っている。海の澄んだ青は素晴らしい、の一語に尽きるし、有名なウニや昆布の味は最高だ。

## 富士山で人を呼び込め

おそらくFDAが飛行機の席をまとめて旅行業者に売り、旅行業者がそれを使って旅行ツアーを企画したのだと思う。それで相当に低コストのツアーが実現したはずだ。旅行者も稚内まで直行していけるので、時間の節約にもなる。

松本から稚内へ飛ぶことで、松本の人は礼文に安い料金で来られる、礼文の観光地は松本のような地方都市から人を呼ぶことができ。礼文は大きな島ではない。だから100人も観光客が来ること、島にとっては大きな収入源となるのだ。

航空業界は、従来は羽田空港のようなハブ空港(拠点空港)を経由した移動が中心であった。これをハブ・アンド・スポークという。スポークとは、傘のように中心(ハブ)からいろいろな所に枝が伸びていることを意味する。これに対して、ローカルからローカルへの移動(ローカル・トゥー・ローカル)の重要性が増してきている。ハブを経由しないですめば、

ローカル・トゥー・ローカルという流れは、静岡の観光にとっても重要な意味を持つ。チャーターでよいので、いろいろな地方空港から静岡空港へのフライトを仕掛けることで、普通であれば静岡に来にくい地域の人を引きつけることが可能となるはずだ。礼文島や利尻富士も素晴らしいが、静岡の富士山はそれに負けるものではない。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。